

優秀賞

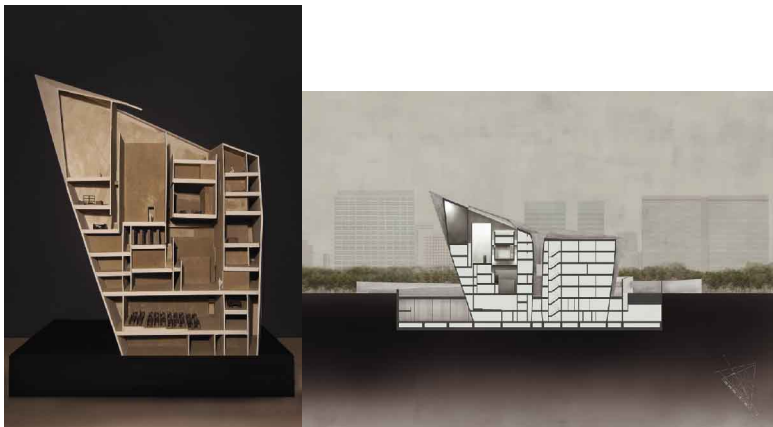
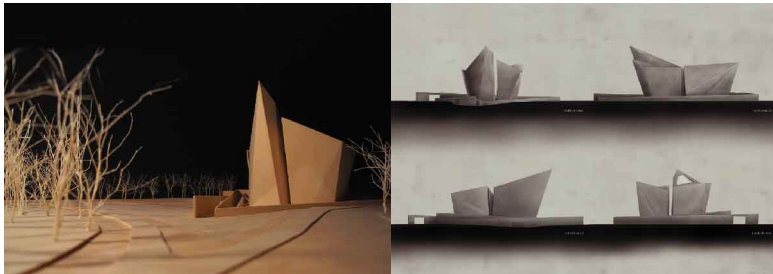


## cbse court(クローズ コート)

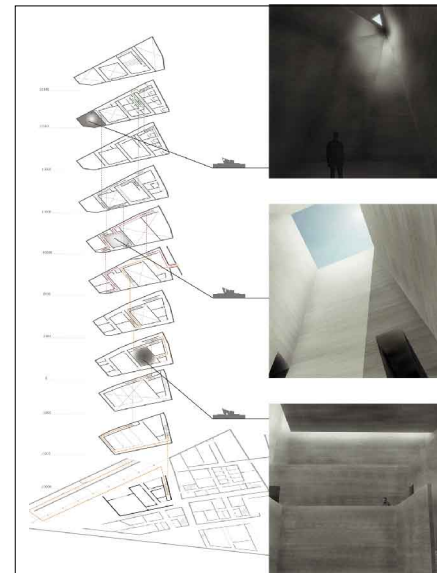
裁判員の為の裁判所

和田 彦丸(わだ ひこまる)

千葉大学 工学部 デザイン工学科 建築系



平成2年5月21日、裁判員制度が導入される。他者に無関心な現代人が無差別に反強制的に司法に参加することになった。制度が変わることで人と建築の関係が変わる時、その建築の新しい在り方の必要性を感じた。親が子を殺し、子が親を殺す...その様な重大な刑事事件に参加する裁判員は「人が人を裁く」ということの重圧を知らなければならない。制度が身近になっても人を裁くという行為は恒久的に厳格であるべきではないだろうか。その為に建築には何が出来るのか。裁判所の空間は、裁判員の抱く時時の感情に即した空間の変化がありながら、それらの空間の根底には常に厳格さが存在しているべきだと思う。人を裁くことに正面から向き合える空間を創りたいと思った。



【講評】この建築に至るすこし曲線を描く道がいい。人々は、この道を歩きながら、これから裁く事になる事件について、深くこころを落ち着かせ、自身の頭で考える時間をもてる、アスブルンドの「森の礼拝堂」へ至る道のように...

天を衝くような、美しいフォルム、おののちに機能を持たせた4つの塊を、光の十字架が結ぶ。一見、人を撥ねつけるような厳格さをもった建築だが、内部に入ると、その表情は変わる、トップライトからの、やわらかい光が人々を包み込む、構成の妙だ。

最後に、厳格さと、優しさ この建築にとっても興行きを、感じるのは、この建築の持つ精神性の深さ結えたと想う。「そのために、建築には何が出来るか」その自らの問いに作者は、類まれなセンスで創って魅せた。

(審査員：信太義晴)